

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
臨床はりきゆう学1							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
鍼灸学科・昼間部	2年	1期	北原 奈那		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位		
専門分野	臨床はり学臨床きゆう学			座学	1		
コマ数							
10							
科目概要							
<p>診察の結果とともに、鍼灸治療の適応・不適応を診断し、適切な鍼灸治療が行えるようその方法を学習する科目である。特に臨床で遭遇しやすい症候・疾病に対して東洋医学と西洋医学を有効に鍼灸治療の実践を学習することに重点をおく。西洋医学的な考え方では鍼灸師が行える診察の結果から、鍼灸治療の適応・不適応について学習する。東洋医学的な考え方では症候ごとに病証を示し、東洋医学概論で学習する疾病感・診断論・治療論などの知識をさらに深める。</p>							
目標							
鍼灸治療の適応・不適応を判断し、適切な鍼灸治療を行うことができるようになるために西洋医学的・東洋医学的の両方向から患者を診察・治療方法を学び・習得する。							
一般目標(GIO)	本講義を学習することで達成されるべき目標						
到達目標(SBO)	一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋医学の診察・治療のメリット・デメリットを理解する。 2. 東洋医学の診察・治療のメリット・デメリットを理解する。 3. 各症例に対する代表的な適応疾患・不適応疾患を理解する。 4. 頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労について基礎知識を学ぶ。 							
履修に必要な予備知識や技能							
解剖学・生理学・臨床医学総論・臨床医学各論・経絡経穴概論・東洋医学概論を基礎とするため、適宜復習を各自したのち授業に臨むように心がけて頂きたい。							
教科書・参考書							
教科書: 東洋医学臨床論 参考書: 解剖学・生理学・臨床医学総論・臨床医学各論・経絡経穴概論・東洋医学概論							
受講上の注意							
東洋医学臨床論の教科書に沿って進行するため、教科書を必ず持参すること。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	オリエンテーション・現代医学的な考え方				p2~4	教科書・筆記用具	
第2回	東洋医学的な考え方				p5~10	教科書・筆記用具	
第3回	頭痛(西洋医学)				p14~17	教科書・筆記用具	
第4回	頭痛(東洋医学)				p14~17	教科書・筆記用具	
第5回	顔面痛(西洋医学・東洋医学)				p18~21	教科書・筆記用具	
第6回	顔面麻痺(西洋医学・東洋医学)				p22~24	教科書・筆記用具	
第7回	歯痛(西洋医学・東洋医学)				p25~26	教科書・筆記用具	
第8回	眼精疲労(西洋医学・東洋医学)				p27~29	教科書・筆記用具	
第9回	試験に向けての総復習				p2~29	教科書・筆記用具	
第10回	筆記試験						
実務経験と本講義との関連について							
総合病院での研修の後、病院勤務を経て開業した経験を活かし、西洋医学と東洋医学の両方の視点で病気を考え、他の医療者との連携も踏まえた講義を行っていく。							
メールアドレス							
kitahara@nihonisen.ac.jp							